

食の“ブランド化”提言 金丸さん「里山産業論」発刊

唐津市出身で食環境ジャーナリストの金丸弘美さん(東京)が新著「里山産業論」(角川出版刊)を発行した。郷土で積み重ねられた食文化を戦略を持って“ブランド化”することで、地元の人材育成や雇用の創出につながると説いている。

金丸さんはロングセラー「田舎力」で知られ、「地方創生」や「6次産業」のテキストとして人気を集めてきた。今回は「食の戦略」をテーマに、6次産業の問題点に切り込んでいる。

1章では、目先のイベントや箱物行政など将来的な視野や展望に欠けた各地の失敗例を指摘。地権者優先の空き家対策や農家任せの商品管理をする直売所、補助金頼りの加工場などの問題点を挙げている。

2、3章では、世界遺産と街並みや宿泊、食を連動させ、観光客を呼び込むイタリアの「スローフード」や、「味覚の講座」を国が実施して子どもの表現力や郷土愛を育み、食品の輸出力を強化したフランスの先進例を紹介している。

4章以降は、日本の先進事例



「里山産業論」の表紙

を紹介。Iターンによる起業や産業創出、都市との交流促進事業を掲げた島根県の離島・海士町や、地元産の農作物・海産物を使った料理で個性あふれる店舗を集積した「グラノ24Kぶどうの樹」(福岡県岡垣町)などの食戦略を読み解いている。

金丸さんは食のワークショップや食のブランド化事業に触れ、「『食』によって人を育てることが、日本の財政を悩ます社会保障問題をも変える」と提言している。(藤生雄一郎)

▷角川出版刊、四六判、228頁。864円。

高校生最優秀賞 有田工高 YOU-TOKU プロジェクト・祐徳 稲荷+門前商店街 PRシヨートムービー



▶電子新聞に 複数写真



一般最優秀賞 アート・アニメーションのちいさな学校 進化師と青い花

幻の合唱曲「唐津」に意欲

九響音楽監督 小泉和裕さん 「市民」として指揮台に

来年10月の唐津初演に向けて、市民合唱団200人が練習を重ねる合唱組曲「唐津」。九州交響楽団との「共演」とあって、さらに熱が入るが、指揮を執る九響音楽監督の小泉和裕さん(66)は唐津を生活の拠点とする。年末恒例の「第九」をはじめ、アマチュア合唱団とステ

う。合唱組曲「唐津」は作曲家團伊玖磨(1924~2001年)が82年に作曲しながら埋もれていた「幻の合唱曲」。小泉さんは「オケと一体となった合唱曲で、制作への期待が感じられる」と話しながら、「成功するかどうかは合唱の出来如何。でも皆さん



合唱組曲「唐津」初演への意気込みを語る小泉和裕 九響音楽監督 17日、唐津シーサイドホテル

松原でリフレッシュし、海山の幸や陶芸、ゴルフを楽しむ。「唐津は、